

第40回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会

最近の新聞より

第40回全国中学生人権作文コンテスト広島県大会(広島法務局、広島県人権擁護委員連合会主催、県教委、中国新聞社など後援)の入賞作品発表が決まった。県内17の校から1万2358点の応募があった。最優秀賞のうち、広島県人権擁護委員連合会会長賞に選ばれた呉市立片山中2年の榎渡十希也さん(14)の作品を紹介する。

「迷惑かけてごめんなさいね。」
ぼくはこの言葉を考えさせられる経験をした。
夏休み、母とショッピングモールに出かけた時の事だ。トイレに行こうとした時、障害者用トイレの前に車イスに乗ったおばあさんがいた。扉の前で何をしているのだろうかと思っていると、その扉は開けてもスツとすぐ閉まってしまふものだから、開けた瞬間に両手で車イスで入るつもりでも、その間にすぐ閉まってしまい、トイレに入れないという行動を繰り返していた。
「どうぞ、開けてきますね。」
すぐ行動をとったのは母だった。ぼくは足が前に動かなかった。母はトイレから出る時も難しいと考えたのが、トイレの前でおばあさんを持っていた。おばあさんが出て来て、扉が開まらない様に支えていた母に、「迷惑かけてごめんなさいね。」とおばあさんは言った。
その後、買い物続ける母は

ぼくに話しかけてきた。「迷惑とか気にしなくていいからね。」
ぼくは何も答えなかった。いや、答えられなかったのかもしれない。ぼくはその様子を見ながら待たされた事に「迷惑」だと思



最優秀賞 広島県人権擁護委員連合会会長賞

「心のバリアフリー」

呉市立片山中2年 榎渡 十希也さん

っていたからだ。その時ふと小学生の時の事を思い出した。母と市営バスに乗っている時、車イスに乗った男の人が乗って来た。車イスの人がバスに乗るには、まず運転手がバスを停め、スロープを下ろし、車イスを押し、頭上にはベルトを巻く、またスロープを長し…と五分以上はバスが停まっていた。その時だった。後ろの席から、「急いでのに迷惑じゃー!」とおじさんがつぶやいた声が聞

いた。周りを見ると、他の乗客も冷たい目で見ている気がした。その時、車イスの男の人は大きな声で言った。「時間を取ってすみませんでした。」
それに続いて運転手さんが「ナ

る」という事だ。それに対して母は迷惑だと思わないで欲しいと言っている事に気付いた。
家に帰るぼくは今日の出来事が気になり車イスについて調べ考えた。二〇一九年に車イスの方が書かれた記事を見つけ、この書いてあった。「車イスを駅員さんに押し回らされているとき、駅員さんが周囲の方におめんなさい、すみませんと頭を下げ続けている姿を見ると落ち込みます。」小学生の時のバスの運転手さんと同じだと思っ

た思いながらも、自分一人で自ら社会に出るがはたして行動をしていると思うと、とても感動し尊敬した。しかも、ぼくが出会ったおばあさんも男の人、とても明るい笑顔だった。そのような世の中の車イスの方が、もっと気兼ねなく社会に出れる社会を作っていく事が大事だと思っただ。「バリアフリー」多様な人が社会に参加する上で、障壁(バリア)をなくすこと。これは安心して自由に生活するために必要な事だ。スロープや多機能トイレといった建物や施設のバリアフリーも大切だが、一人ひとりが多様な人々を思いやる「心のバリアフリー」も広げていく事が大切だと思っただ。前に一歩出なかつたぼくも、これからは困っている方の為に少しでも役に立てるよう行動していきたい。その一としてまずは「何かお困りですか。」と声をかけてみようと思う。

日常の中から 平和絵本の再版



「2021年を振り返り、一番印象に残っていることといえば、絵本「たむちやんの長い夜」を25年ぶりに再版できたことです。この絵本は私が広島平和教育研究所に勤務していた時、福山市の平和教育部のなかまが作った絵本を出版したものです。当時は福山市内の学校でも平和教材として活用されました。25年経った今でも、多くのことが学べる絵本です。一人でも多くの子どもたちに読んでもらえることを願って再版しました。」

地域に向いて



・市内中心部の地域ふれあ
けろんどの講演依頼があり、喜んで参加させていただきました。コロナ禍といふことで参加者約30名、時間は30分でしたが、災害への対応やフェイル予防等について、クイズや手品、絵本の読み聞かせを交えて話をさせていただきました。
読み聞かせは「おばあさんのしんぶん」という絵本を聴いていただきました。
また、普段練習として感じていることや、参加者へのお願いなども伝えさせていただきました。
機会があればぜひまた参加させて欲しいと思います。

